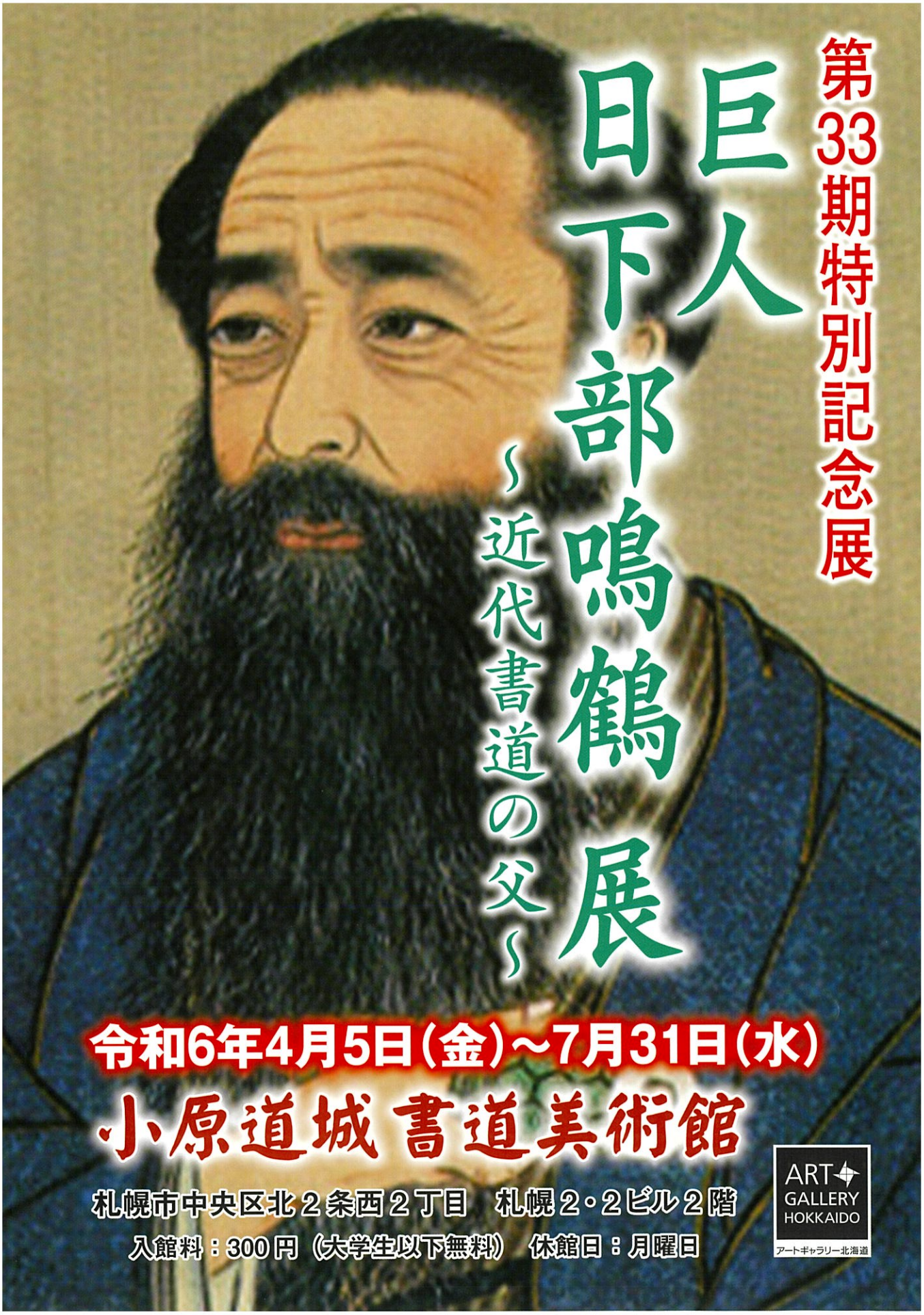
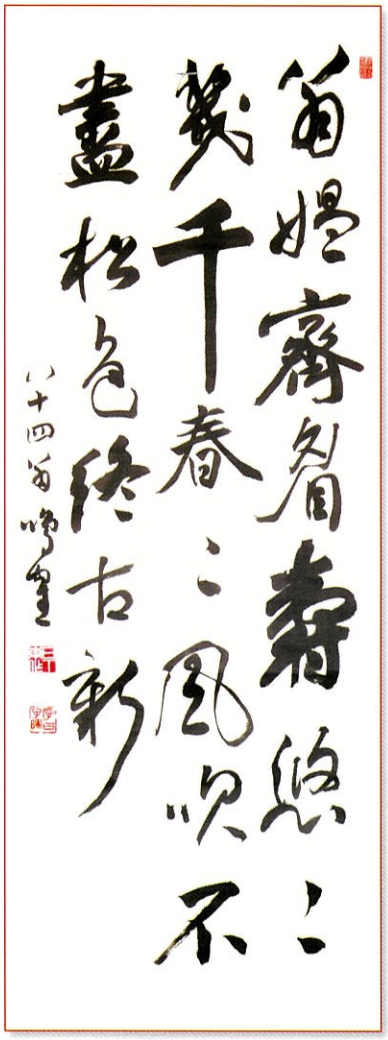

第33期特別記念展
巨人
日下部鳴鶴展
～近代書道の父～
令和6年4月5日（金）～7月31日（水）
小原道城書道美術館
札幌市中央区北２条西２丁目　札幌２・２ビル２階
入館料：300円（大学生以下無料）　休館日：月曜日
ART GALLERY HOKKAIDO
アートギャラリー北海道

日下部鳴鶴（一八三八～一九二二）は、中林梧竹・巌谷一六と共に、明治の三筆の一人と称される書道界の巨人です。鳴鶴は、当初貫名菘翁の書に傾倒していましたが、明治一〇年代に清国公使随員として来日した、楊守敬のもたらした大量の碑板・法帖を実見して以来、漢魏六朝の書を学びました。そしてその中から中国歴代の書法の変遷を吸収、特に六朝書を取り入れるとともに、廻腕執筆法を習得しました。これにより、従来の晋唐の法帖を中心とする学書から、中国書道史の全体を見わたしての臨書による学書へ、そして多様多彩な書法の中から、独自・清新な書風の創出へと、時代の先頭を切り拓いていったのでした。

鳴鶴はまた後進の指導育成にも力を注ぎましたが、その学書に当たっては、師法を強制することなく、それぞれの個性を伸張・発揮させることに努めました。門弟には俊秀が多く、それぞれが個性を発揮しながら大成し、更にその後進を育て上げるなど、鳴鶴に端を発する門流は隆盛を極め、現代書道に繋がっているところです。この影響力の大きさから、近代書道の父とも称されました。

本展では、この鳴鶴の若い時代から円熟した時代までの作品、四十九点を展覧します。近代書道の形成に燃えた巨匠の書業の一端に触れていただき、その息吹を感じ取って戴ければ幸いです。



▶翁媼齊眉壽～

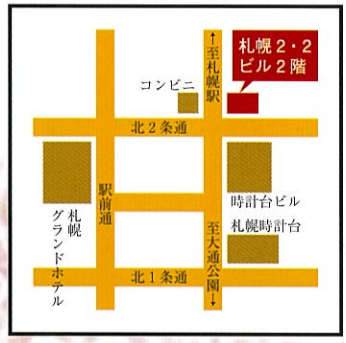
▶臥薪嘗胆苦～

▲薄夜蓮塘帶醉歸～

小原道城書道美術館

〒060-0002
札幌市中央区北２条西２丁目41
札幌２・２ビル２階
お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）
開　館：午前10時～午後５時
休　館：毎週月曜日
交　通：JR札幌駅より徒歩５分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩５分



小原道城書道美術館　第33期特別記念展

会期　令和6年4月5日(金)～7月31日(水)

休館日：毎週月曜日

ART GALLERY HOKKAIDO
アートギャラリー北海道

巨人　日下部鳴鶴　展

日下部鳴鶴（一八三八～一九二二）は、中林梧竹・巌谷一六と共に、明治の三筆の一人と称される書道界の巨人です。

鳴鶴は、当初貫名菘翁の書に傾倒していましたが、明治十年代に清国公使随員として来日した、楊守敬のもたらした大量の碑板・法帖を実見して以来、漢魏六朝の書を学びました。そしてその中から中国歴代の書法の変遷を吸収、特に六朝書を取り入れるとともに、廻腕執筆法を習得しました。これにより、従来の晋唐の法帖を中心とする学書から、中国書道史の全体を見わたしての臨書による学書へ、そして多様多彩な書法の中から、独自・清新な書風の創出へと、時代の先頭を切り拓いていったのでした。

鳴鶴はまた後進の指導育成にも力を注ぎましたが、その学書に当たっては、師法を強制することなく、それぞれの個性を伸張・発揮させることに努めました。門弟には俊秀が多く、それぞれが個性を発揮しながら大成し、更にその後進を育て上げるなど、鳴鶴に端を発する門流は隆盛を極め、現代書道に繋がっているところです。この影響力の大きさから、近代書道の父とも称されました。

本展では、この鳴鶴の若い時代から円熟した時代までの作品、四十九点を展覧します。近代書道の形成に燃えた巨匠の書業の一端に触れていただき、その息吹を感じ取って戴ければ幸いです。

■小原道城書画展

書３点は、いずれも書風が異なり、小原道城の面貌の幅の広さを窺うことができます。画１点は、幽遠な趣の遠近感ある中国画です。

■大塚鶴洞色紙展

本道の近代書道黎明期に、北海道鉄道管理局で若き金子鷗亭・桑原翠邦らを指導した大塚鶴洞の色紙をご紹介します。

◆巨人　日下部鳴鶴　展◆（第一・二・三・四室）

（作品寸法：縦×横、単位cm）

（第一室）

展示番号

一　重嶂兼復澗　烟嵐暮色迷　溪邨何處在　犬吠竹林好　（138×47）

二　楚岸雲空合　楚城人不來　只今誰善舞　莫恨廢章臺　（126×46）

三　林下逢神女　澹妝淑且眞　鳴禽忽驚夢　獨影四無人　（131×19）

四　出門先一咲　山色暎征衣　身影似孤雀　何天不可飛　（114×27）

五　積翠揺々蘸影浮　峯巒回合水縈流　炎塵併與世塵洗…　（151×65）

六　溪南雨過煖烟霏　嫩葉芳芽露未晞　兒女聲々歌且和…　（130×66）

七　移得瀟湘碧　數竿牕下栽　清風將細雨　夜々爲君來　（147×39）

八　國亡不死爲雙親　賦艸咏花都痛神　埋骨靈巖梅樹底…　（185×52）

九　②領得先春意　花魁不与爭　僊子原柔婉　從來兄事卿　（十一者合作　155×58）

一〇　⑤泉石由來有宿因　苔衣自護舊精神　山中高士心如銕…　（五者合幅　28×57他）

一一　蘇山風景自勝春　霜氣入林秋色新　休怪溪頭重回首…　（169×47）

一二　①樂事以不盡爲有趣、②幽情自相喩於無言　（双幅　各150×18）

一三　瀟然絶塵俗　髣髴庾生居　樹密無驚羽　荷搖見戲魚…　（98×35）

（第二室）

展示番号

一四　きえ残るゆきかとまかふ遠山の　松のこの間の花のひともと　（短冊軸　35×6）

一五　①尋詩出郭門　野趣清心目　破店補疎梅　荒籬轉生竹　（二者合幅　各22×17）

一六　昨從幽澗底　移此一穉松　盆瓦不盈尺　可以養蒼龍　（134×30）

一七　氷紈一片倚牕開　纖手把玩支玉顎　仙女不知塵熱苦…　（27×21）

一八　啓乃師衆見王為周容錫貝五朋用為寶器鼎二…　（162×43）

一九　去訪江南路　香風掠吟髪　美人來不來　獨歩黄昏月　（96×29）

二〇　無復涓埃報聖時　十年會侍鳳凰池　丹心唯有青燈照…　（150×49）

二一　稚宜看嫩葉　日々化成龍　更歴風霜處　平安見老容　（147×36）

（ショーウインドウ内）

二二　①石潤雲先動　橋平水漸過　野陰添晩重　山意向秋多…　（六曲一双屏風の右隻　101×59）

二三　冷泉亭畔過溪行　水石珊々松籟清　也似雪泥鴻爪迹…　（143×58）

二四　海色蒼茫山色連　層樓開在斷磯邊　金烏蹴浪雲霞曙…　（134×68）

（第四室）

展示番号二五　碧瓦飄風苔壁欹　表忠之觀艸離々　停筇欲問當年迹…　（141×42）

二六　歩履欲重　容止欲舒　周旋遅速　與仁義俱　行不畔乎規…　（129×52）

二七　東風吹暖入南枝　鶯語綿蠻春日遅　得意先生閑事業…　（130×51）

二八　伊余懐人　欣徳孜々　我有旨酒　与汝樂之…　（76×57）

二九　①去訪江南路　香風掠吟髪　美人來不來　獨歩黄昏月…　（132×54）

三〇　①一巻楚騒細讀　②數行晉帖閑臨　（双幅　各130×28）

三一　江上愁心千疊山　浮空積翠如雲烟　山耶雲耶遠莫知…　（178×72）

三二　作佳竟哉眞大好　上有仙人不知老　渇飲澧泉飢食棗…　（129×53）

三三　天發神讖篆　方圓巧卷舒　千年傳遺緒　獨有鄧石如　（137×33）

三四　薄夜蓮塘帶醉歸　愛他香露濺人衣　淡烟如夢依稀遠…　（134×45）

三五　①花魁一枝散　汚気藹中庭　生竹光欺玉　臨流粲逗星…

②好將淇澳緑猗々　便向黄金臺下移　雪節霜根此君子…

三六　領得先春意　花魁不与爭　儛子原柔婉　從來兄事卿　（双幅　各178×47）

三七　①踏破豊山萬疊雲…　②逕与溪流往復回…　③峯倒崖欹頭上傾…　④梵王宮在層峰頂…

三八　急流一道擘山馳　俯視天龍峽勢奇　安得魯公椽大筆…　（120×44）

三九　白髪霜髯老鶴仙　初繙書勢對春天　幸逢東海休明運…　（143×39）

四〇　日々篷牕日々閑　夢魂飛入翠微間　遙青一抹好眉樣…　（132×49）

四一　須磨記　癸巳晩秋二十一日雨晴欲往観須磨明石早發…　（131×32）

四二　風清月白一扁舟　也似蘇仙赤遊　望美人兮人不見…　（128×50）

（172×58）

（145×51）

（第三室）

展示番号四三　赤壁賦　壬戌之秋七月既望蘇子与客泛舟遊于…
後赤壁賦　是歳十月之望歩自雪堂將歸于臨皐…（六曲一双屏風　各135×52×6）

四四　臥薪嘗膽苦　不變丈夫心…（45×50）

四五　瑞日揚光懸東海　端然起拜鳳皇宮…（134×64）

四六　感遇偏忘客路難　周彝商鼎與人看…（150×53）

四七　翁媼齊眉壽　悠々幾千春　春風吹不盡…（127×50）

四八　久壽長生本在天　功名富貴迹如烟…（19×54）

四九　筆出鋒太短傷於勁硬…（143×73）

◆小原道城書画展◆（第三室）

展示番号五〇　月影清（229×81）

五一　千尺高巌瀑布流　振衣五月訝深秋（179×96）

五二　廣川王賀蘭汗造弥勒像願令永絶（134×33）

五三　霜葉蕭々鳴屋角　黄昏陡覺羅衾薄…（137×34）

◆大塚鶴洞色紙展◆（第四室ショーケース内）

一　去國三巴遠…　二　登高有所思　三　雲歸時帶雨數點…
四　あまのとを…　五　寒夜霜鍾悟後心　六　萬人買醉攪芳叢…
七　なつのよは…　八　人生感意氣…　九　わかなつむ…
一〇　聞逐樵夫閑看棋…（小色紙各20×16）
一一　瑞氣満梅花　一二　夜色秋光共一闌…
一三　至樂莫如讀書…　一四　黒雲翻墨未遮山…
一五　秋涼春暖筋骸健…　一六　一逕梅香雲満地…
一七　青燈暮雨殘詩帖…　一八　雲在岫無争出意…（色紙各27×24）

小原道城書道美術館

〒060-0002　北海道札幌市中央区北2条西2丁目41番地　札幌2・2ビル2階
お問い合わせ先＝日本書道評論社（TEL011-552-2100）

[入 館 料]　300円（大学生以下無料）
[開館時間]　午前10時～午後5時
[休 館 日]　毎週月曜日・年末年始・お盆休み・作品の展示替えの期間
[交　　通]　JR札幌駅より徒歩5分、地下鉄さっぽろ駅・地下鉄大通駅より徒歩5分

協　賛／日本書道評論社・㈱日成堂